

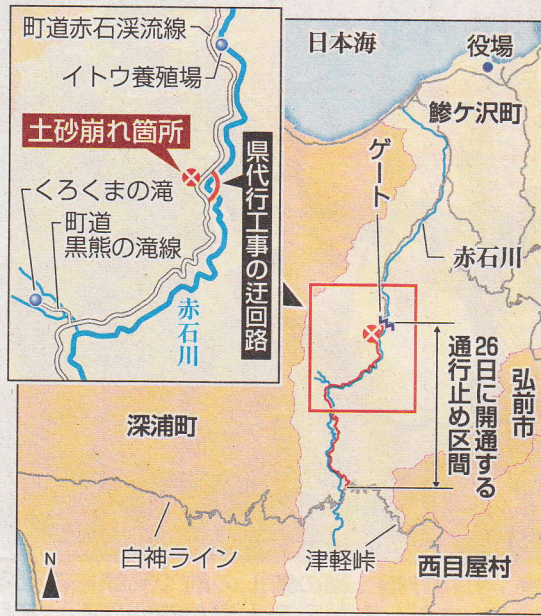
赤石溪流線26日開通

鯉ヶ沢の町道 4年半ぶり 白神のアクセス復旧

鯉ヶ沢町は1日、2015年2月の土砂崩れで通行止めとなっている町道赤石溪流線を26日に開通すると発表した。同線は世界遺産・白神山地への重要なアクセス路線の一つで、県道岩崎西目屋弘前線(白神ライン)に通じる通行止め区間約14キロが4年半ぶりに復旧する。赤石溪流線沿いにある人気スポット「くろくまの滝」に通じる遊歩道も崩落箇所が復旧し、再び滝が眺められるようになる。(藤田慎慈)

同日は午前10時から赤石溪流線ゲート付近で県や国、地元関係者らとともに開通安全祈願祭を実施。同11時から新大然橋入り口で開通式を行い、テープカット後に一般の通行を開始する。開通に合わせて訪れた観光客には記念品を配布する。

赤石溪流線の道路改良工事は県が事業費を負担する代行事業として16年11月に着工。土砂崩れがあった赤石川の対岸側に橋架け替えを含む延長740メートルの迂回



ら安全対策工事を実施している。
赤石溪流線からくろくまの滝の近くまで遊歩道が整備されている町道黒熊の滝線でも、滝の展望所付近やのり面などの崩壊が複数発生したため、補修工事を行っている。

26日の赤石溪流線開通時点では、滝近くまでの遊歩道は仮復旧の状態。滝は見ることはできるが、以前のように滝つぼ近くまで通行可能になるのは来年度以降の見通し。